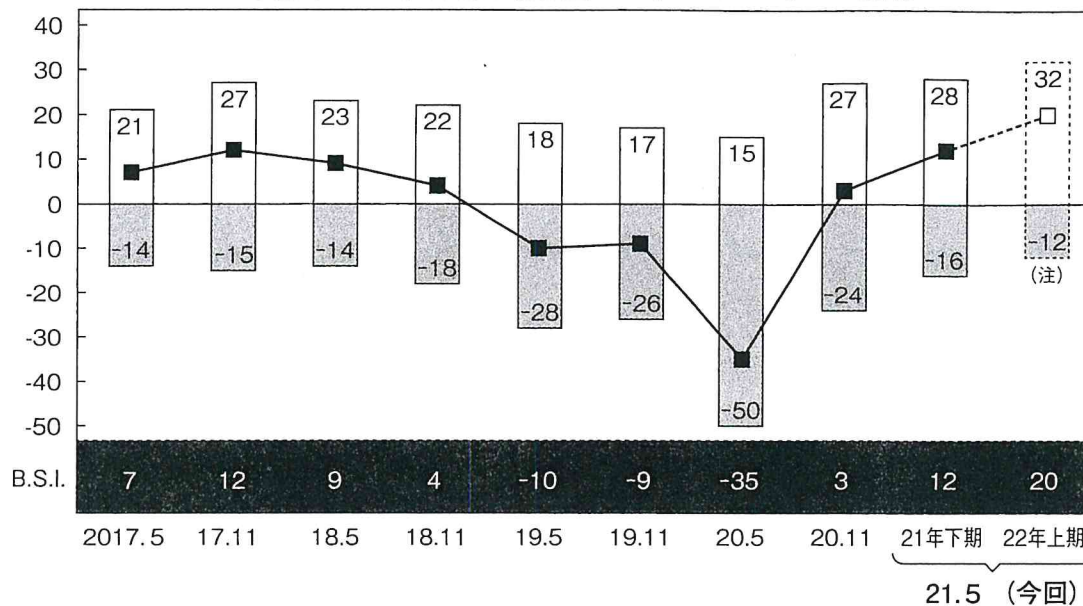


## 《 静岡県内企業経営者の景気見通し調査 》

静岡経済研究所が実施した2021年下期(7月～12月)の景気見通し調査は以下の通りです。  
(抜粋)

### 景況感は2期連続で改善 ～製造業、非製造業ともにプラスに～

図表1 業界景気見通し (B.S.I.) の推移



□ 上昇 (%)、■ 下降 (%) —■ B.S.I. (「上昇」と「下降」の差を指数化したもの)

(注) 2022年上期は2021年下期と比べた業績見通し

#### 景気見通し (概況)

□ B.S.I. は大企業で大きく上昇、全体でも改善判断が続く

2021年下期 (7～12月) のB.S.I. (※) による業界景気見通しは、「上昇」(28%) が「下降」(16%) を+12ポイント上回り、プラスに転じた前回調査に引き続き改善判断を維持する結果となった (図表1)。生産量や売上額の増加が見込まれることから、企業経営者の景況感は回復傾向を示している。

企業規模別にみると、大企業では「上昇」(40%) が「下降」(9%) を+31ポイントと大幅に上回り、中小企業も「上昇」(27%) が「下降」(17%) を+10ポイント上回り、改善を見通す経営者が多い (次頁図表2)。

2022年上期 (1～6月) は、「上昇」(32%) が「下降」(12%) を+20ポイント上回る結果となった。企業規模別でみると、大企業では+29ポイントと大幅に改善すると見込まれ、中小企業でも+18ポイントと、大企業を中心に景況感の改善が続く見通し (次頁図表2)。

(※) B.S.I. (Business Survey Index) とは、「上昇」と「下降」の差を指数化したもの。

# 三島工業団地ニュース

No.7 令和3年7月15日

Vol.43 三島工業団地協同組合

2-2

## 業種別見通し

### □製造業は引き続き改善傾向、非製造業もプラスへ転じる

2021年下期の業種ごとの見通しを前回調査と比べると、製造業(+7→+14)は改善傾向を強め、非製造業(△1→+10)はプラスへと転じた(図表3)。

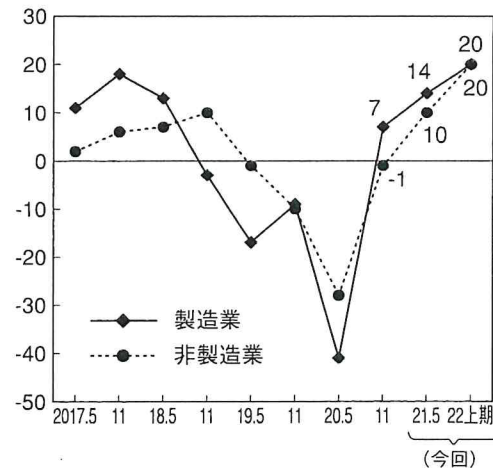
業種を詳細にみると、全20業種のうち、「上昇」が12業種、「横ばい」が2業種、「下降」が6業種となった。製造業では、「一般機械器具」(△8→+42)が改善に転じ、「食料品」(+24→+32)、「パルプ・紙・紙加工品」(+13→+22)などで引き続き改善傾向を示した。また、非製造業では、「小売業」(△20→+13)、「ホテル・旅館業」(△25→+60)でプラスへと転じ、「卸売業」(+3→+8)、「運輸・倉庫業」(+21→+34)で改善傾向が強まった。

なお、2022年上期の見通しについては、製造業、非製造業ともに+20と改善判断となった。中小企業に比べて大企業で改善を見込む経営者が多い(図表2、3)。

図表2 業種別・規模別 B.S.I. (単位: %)

項目	回答企業数	業界景気							
		2021年7~12月				2022年1~6月			
		上 昇	横 ばい	下 降	B.S.I.	上 昇	横 ばい	下 降	B.S.I.
全企業	367	28	56	16	12	32	56	12	20
大企業	45	40	51	9	31	36	57	7	29
中小企業	322	27	56	17	10	31	56	13	18
製造業	182	30	54	16	14	30	60	10	20
大企業	18	61	33	6	55	44	50	6	38
中小企業	164	27	56	17	10	29	60	11	18
非製造業	185	27	56	17	10	33	54	13	20
大企業	27	26	63	11	15	30	63	7	23
中小企業	158	27	55	18	9	34	52	14	20

図表3 業種別 B.S.I. の推移



注1) 本調査における中小企業とは、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業(ただし卸売業では同1億円以下または同100人以下、小売業では同5,000万円以下または同50人以下、サービス業では同5,000万円以下または同100人以下)であり、それ以外を大企業とした。  
注2) 「2021年7~12月」は「2021年1~6月」と、「2022年1~6月」は「2021年7~12月」と比較した見通しである。

## 今後重視する経営戦略

### □経営基盤の強化や人材の確保・育成を重視

今後重視する経営戦略としては、製造業では「合理化・コスト削減の徹底」(72.4%→64.1%)、非製造業では「人材獲得・育成」(65.7%→70.3%)を挙げる経営者が多かった(図表8)。

製造業では「人材獲得・育成」(57.1%→63.5%)「技術力・企画力の強化」(53.2%→59.7%)が前回調査から増加した。非製造業では「新規顧客・販路の開拓」(50.6%→52.4%)「働き方改革の推進」(51.8%→49.7%)が多いほか、「IT化の推進(デジタル化対応)」(39.2%→44.3%)を挙げる経営者が増加した。

以上のように、静岡県内企業経営者による2021年下期の景気見通しは、大企業がけん引する形で、改善判断が続くとの結果となった。とはいえ、非製造業を中心に売上不振を課題視する経営者はいまだ多く、原材料価格の上昇が収益環境に影を落としており、コロナ感染が収束しない中では予断を許さない状況にある。

図表8 今後重視する経営戦略(複数回答)

